

災害救援ボランティア支援事業 ～被災者と共に支える思いやり溢れる支援～

- 本市の災害救援ボランティアセンターの現状
⇒地域防災計画での位置づけがない
⇒大災害時を想定して、早急に設立運営の
手引き書を作成することが必要
- 西湘災害ボランティアネットワークは・・・
 - ・全国の災害救援ボランティアのネットと連携
 - ・県内約20市町によるネットワークの一つ
 - ・13年間、ボラセン運営の学習会と訓練を展開

1

手引き書作成の手法と工程

- 完成品・・・約40ページの携帯本とCD-ROM
- スケジュール
 - 7月～9月 当会で第1次案を作成
 - 10月～11月 市・社会福祉協議会・当会との
協働で第2次案を作成
 - 12月 パブリックコメント
 - 1月 内容決定
 - 2月 印刷製本、CD-ROM 製作
 - 3月 納品

2

協働の役割分担

- 当会の役割
- 市の役割
- 協働による効果
市・社会福祉協議会・当会との協働作業
⇒このような形での手引き書作成は県内初
⇒総合力による各種事業への応用展開を期待

3

当会の実施能力

- 当会の経過
13年前(16年前がボランティア元年)に設立
- 主な活動
- マニュアル作成能力について
 - ・神奈川災害ボランティアネットワーク発行の「災害
救援ボランティアコーディネーターハンドブック」の作
成に携わった会員を有する
 - ・市外の学識者との人脈あり

4

成果物の活用と期待

①活用法

例年市が実施する総合防災訓練、連合自治会による
防災訓練、社会福祉協議会における災害ボランティ
アの訓練等での活用

- 手引き書・・・ボラセンの設立・組織及び運営の例示、
各種書類の様式等で構成
- CD-ROM・・・上記手引き書の内容及びボラセンや
各避難所で使用するA4版の様式を網羅

5

成果物の活用と期待

②手引き書に基づく模擬訓練等の開催

最優先の課題・・・ボラセンの適地の選定

- 市の総合防災訓練時の定番化
- 手引き書の改訂版の予算化
- 災害救援ボランティアを増やす施策の展開

6